

額田の城下町

ようこそ
額田城跡

～目次～

おもてなし活動 1P

歴史の散歩道 2P

額田城跡保存会決算報告 3P

活動の記録、今後の奉仕作業 4P

「おもてなし活動」

額田城跡保存会では、額田城跡の見学を希望している方に、楽しく額田城跡を理解していただけるよう額田城跡の案内など「おもてなし活動」を実施しております。

先日、見学会に参加した大森弘道様より感想とお礼の手紙及び写真を頂きました。

私たちの活動の励みとなりますのでご紹介いたします。

(感想)

五月十一日(木)那珂市教育委員会・那珂市中央公民館主催の史跡と文化財巡りに参加し講師の先生を含め総勢二十七名にて額田城跡を探索いたしました。

阿弥陀寺の裏手より本丸、二の丸の跡地、塚跡、土塁などの面影を残しており額田地区にこのような重要な史跡があることは大変素晴らしい貴重です。

今後大切に保存して下さいよう希望します。

(手紙及び写真)

先日は、大変お世話になりました。ありがとうございました。

我が家のプリンターで印刷したのですが写真お送りいたします。皆様に宜しくお伝えください。



額田城跡駐車場

が整備されました。多目的に活用できる駐車場です。是非ご利用ください。



(額田城跡駐車場)

【歴史の散歩道】

大坂夏の陣 ～旧額田城主と主従関係～

大坂夏の陣！昨年大河ドラマ「真田丸」における真田幸村の壮絶な最期は記憶に残る場面だった。実は「旧額田城主・小野崎昭通もその時大坂にいたという事実」を皆さんはご存じだろうか。

戦国時代の末期に額田城は、佐竹義宣に攻め落とされた。額田城主としての地位を失った小野崎昭通は、伊達政宗に保護され、後に伊達政宗の娘婿である松平忠輝（徳川家康の六男）に取り立てられ、更に水戸徳川家に仕え水戸藩士として落ち着くこととなる。今回の話は、松平忠輝に仕えていた頃の話である。

まず松平忠輝を簡単に紹介しよう。この人、徳川家康の息子ではあるが、あまり信用されていなかったのか、新たに大名として取り立てられたものの大坂冬の陣では留守番役で戦場に出られず武功を挙げる機会に恵まれなかった。また、夏の陣に出陣したものの「遅参」という失態をしてかしてしまった。後に兄将軍の徳川秀忠より改易を命じられ、領地は没収されてしまうこととなる。

さて話は戻り、小野崎昭通が仕えた当時の松平忠輝は、新規取り立て大名として大きな課題を抱えていた。それは、いかにして強力な軍団を創出するかであった。既存の大名であれば古くから仕える家臣団がそろっている。しかし、新規取り立て大名にとっては、与えられた家臣だけでは足りない。で新たに軍団創出の努力をしなければならなかった。

ここで利用されたのが「既に存在している主従関係」の利用である。戦国の世で敗れた国人衆（浪人）には、戦いに敗れ領地を追われたものの旧領主・旧臣との主従関係は続いている場合があった。この主従関係を利用し、自らの軍団に組み込むことで軍団を強大にする方策を取ったのである。実際、新規取り立て大名の家臣には、かつて浪人であった国人衆が多いようである。小野崎昭通も大坂出陣に際し、松平忠輝から八十騎ほど寄騎を受けたが、同時に「覚え侍をつれ参れ！」と命じられ額田城主時代の旧臣を集めたようである。そのうちの一人が「軍司八助」

であり、今回の話の重要人物である。

では早速、次の古文書を見ていただきたい。これは軍司八助が大坂夏の陣で挙げた武功に対し小野崎昭通が発給した文書である。（以下、「感状」と表現する。）

今度大坂御陣
城せめ二付而京都より
折返、大坂迄被打越候、
折角之處并手柄
無比類候、為後日之
證文并一字遣之候、
以上
昭通（花押影）
慶長廿年
五月吉日
軍司八助殿
道貞

古文書なのでなかなか理解しがたいが、今風に分かりやすく説明すると「軍司八助さんは、大坂の陣で類を見ない大手柄を上げましたの

で証明します。」と言ったような内容を小野崎昭道から家臣の道貞を通して軍司八助に伝えたものである。

軍功に対する感状は、軍団を取りまとめる大名またはその役割を持つ家老から発給されるのが通常であった。しかし、軍司八助の軍功に対し松平忠輝からではなく小野崎昭通から発給されており、新規取り立て大名であった松平忠輝としても小野崎昭通・軍司八助の主従関係を理解しつつこれを組み込み、軍団編成・強化を進めていったことがうかがえる。ここでは省略するが、小野崎昭通から感状が発給させられることを松平忠輝側が別の文書により認めている。

軍司八助としても大坂の陣の後、小野崎昭通が直接將軍からの取り立てられることを期待し松平忠輝には仕官せず、早急の仕官よりも昭通への主従関係を重視していた。

とにかくこのことは、ひとつの例にすぎないかもしれないが、戦国の世が終わり、大名・領地が整備され、戦国時代にあふれた浪人が大名の家臣として取り立てられ世の中が

徐々に安定していったことを想像できる材料にもなるのではないかと思う。

そして、何よりも「旧額田城主・小野崎昭通が旧臣とともに大坂夏の陣に出陣していた」という事実を知っていただき、更なる額田城跡についての興味を皆さんに抱いていただければ幸いである。

最後に「軍司八助」であるが、後に小野崎昭通が水戸藩に仕官した際、小野崎昭通の組付とされ禄高も抑えられてしまう。そのため、小野崎昭通の組とは独立して奉公することとを求めるようになり、時代の流れとともにかつての主従関係は変転していくこととなる。



〈参考文献〉

十王町の歴史と民俗 第十三号

「額田小野崎文書」

佐々木倫朗 稿

平成29年5月13日、平成29年度額田城跡保存会総会が開催されました。

平成28年度決算状況をお知らせいたします。

収入の部

項目	予算額 (円)	決算額 (円)	差引増減(円)	摘要
前年度繰越金	76,922	76,922	0	
年会費	77,000	75,000	△2,000	75 戸×1,000 円
賛助会費	63,000	63,000	0	63 戸×1,000 円
助成金	0	0	0	
雑収入	30,000	10,016	△19,984	小山とし子様 10,000 円 預金利子 16 円
合計	246,922	224,938	△21,984	

支出の部

項目	予算額 (円)	決算額 (円)	差引増減 (円)	摘要
会議費	25,000	4,052	△20,948	会場借用代等
事業費	190,000	101,182	△88,818	奉仕作業、機材整備、会報紙発行、園芸資材等
事務費	25,000	2,412	△22,588	事務用品等
予備日	6,922	0	△6,922	
合計	246,922	107,646	△139,276	

(収入合計) 244,938 円 — (支出合計) 107,646 円 = (差引残高) 117,292 円

差引残高の 117,292 円は、平成29年度に繰り越します。

【活動の記録】

平成28年	
8月20日	奉仕作業 参加者16名 (夏休みボランティア)
9月17日	奉仕作業 参加者14名
10月15日	奉仕作業 第2自治会の皆様 参加者30名
11月20日	奉仕作業 参加者6名
12月17日	奉仕作業 参加者12名
平成29年	
3月11日	奉仕作業 参加者10名
4月15日	奉仕作業 参加者14名
5月13日	総 会
5月14日	奉仕作業 (13日雨天のため順延) 参加者3名
6月17日	奉仕作業 第2自治会の皆様 花みずきの皆様 参加者33名

【今後の奉仕作業】

7月1日	第1土曜日	8:00~10:00
7月22日	第4土曜日	8:00~10:00
8月19日	第3土曜日	8:00~10:00
9月16日	第3土曜日	8:00~10:00
10月21日	第3土曜日	8:00~10:00
11月18日	第3土曜日	9:00~11:00
12月16日	第3土曜日	9:00~11:00
1月と2月は休み		
3月17日	第3土曜日	9:00~11:00

作業内容は、二の丸花畑の手入れ、芝生内外の除草、遊歩道の清掃や安全点検などです。

雨天の際は翌日の日曜日に行います。

連絡先 090-3147-1293 会長 武藤博光

【募集しています。】

☆夏のボランティア体験を募集☆

○活動日時 : 8月19日(土)

午前8時~10時

○集合場所 : 額田地区交流センター

○募集対象 : 小学生、中学生、高校生、
大・短・専門学生、社会人

○申し込み先 : 那珂市社会福祉協議会 電話029-229-0309

※額田城跡保存会は、那珂市社会福祉協議会のボランティアサークルに登録しています。



昨年の夏ボランティア体験

【額田城跡の植物】



采配蘭 サイハイラン

古くから額田城跡に自生している采配蘭。”采配”は戦いのき、大將が軍を指揮するときを使う武具です。紙を細く切って、木の柄につけたもので、はたきのような形をしています。その“采配”によく似た花をつけることから采配蘭という名前がつけました。

編集後記

奉仕作業をしながら堀を見渡し、想像してしまいます。「この城、どうやって攻め落とそう！」戦国大名佐竹義宣も手を焼いた額田城なのだから守りに堅い城だったに違いない。このようなことを考えながら奉仕作業に参加すると何か発見があるかもしれませんね。

皆様の想像力と体力を是非、奉仕作業に！
お待ちしております。